

かがほし

じょうえつ市議会だより

特集

今夏の深刻な水不足―
議会の対応は

TOPIC 01

令和6年度の決算を審議
9月定例会

…4P

TOPIC 02

市長の不適切発言に対する議会の対応
市長への申入れ・全員協議会

…18P

TOPIC 03

市民×議員
11月に意見交換会を開催

…裏表紙



上越市議会
ホームページ

議会の対応を PICK UP

深刻な水不足

— 議会の対応は —



7月30日 農政建設常任委員会管内視察

清里区内のほ場や坊ヶ池などを調査しました。農業用水確保に向けた取組を確認するとともに、農業者や坊ヶ池管理者の皆さんから現場の声をお聞きするなど、情報収集に努めました。



7月15日 農政建設常任委員会管内視察

正善寺ダム及び正善寺浄水場を調査しました。現場でダムの現状を確認したのち、浄水場では節水対象地域や、破断した水圧管路からの放流状況などについて説明を受けました。



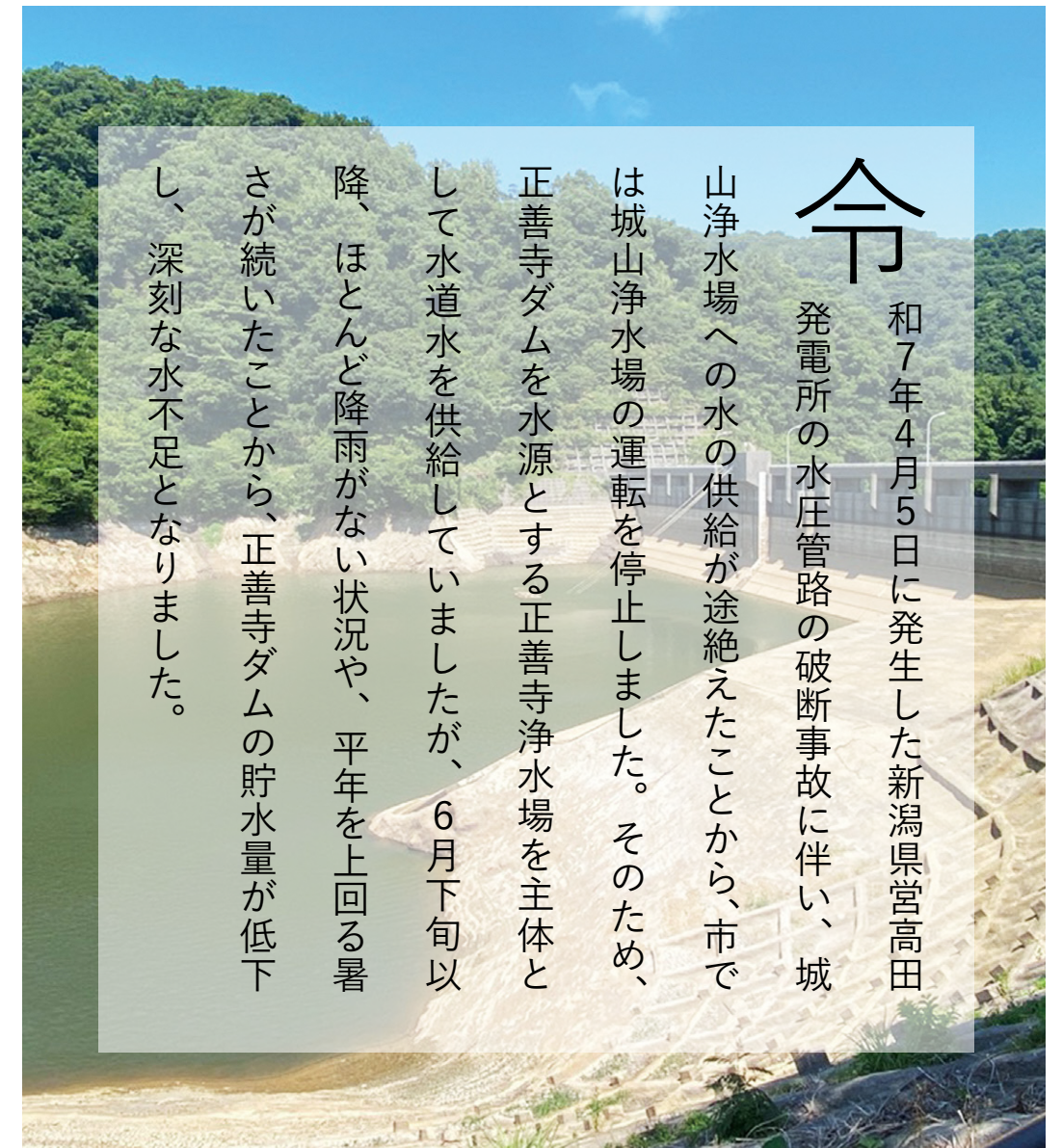
8月28日 全員協議会

市長等から全議員が今後の対応などについて説明を受け、「消雪用井戸からの取水は、地盤沈下に影響しないのか」などの質疑を行いました。

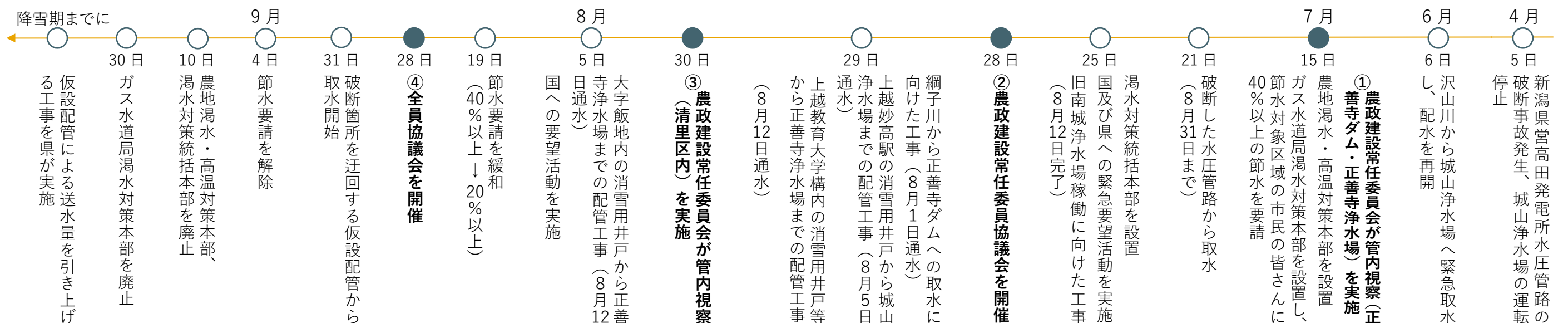


7月28日 農政建設常任委員協議会

ガス水道局から原水確保の取組や節水の周知状況などの報告を受けて現状を確認するについて委員間で協議しました。



議会と行政の動き



point
03

ジビエの利活用促進

狩猟者や飲食店を対象にジビエの利活用を目的とした学習会、講習会を開催することで、ジビエ肉を調理する飲食店が新たに確認されるなど、ジビエの需要と供給の拡大を図りました。

■ 議員のQ&市のA ■

Q ジビエの需要と供給の拡大につながった取組は何か。

A 市内 26 店舗の飲食店等に対し、調理の機会を提供する目的でジビエのサンプル品を提供した取組である。そのうち、5、6 店舗がメニュー化したと聞いている。

Q 今後の展開をどのように考えているか。

A さらに利活用の推進が必要だと考えており、引き続き講習会を開催するなど、ジビエの普及に向けて取り組む。



ジビエ料理講習会

point
04

上越市観光キャンペーン事業

小木直江津航路を利用して市内宿泊施設に宿泊する人に対し、宿泊割引と参加店舗で利用できるクーポンを配布する観光キャンペーン事業を実施しました。

■ 議員のQ&市のA ■

Q クーポンを利用した宿泊者 206 名をどう分析しているか。

A 約半数は直江津地区、4 分の 1 は高田地区に宿泊しており、当市への誘客と市内消費の拡大につながったと考えている。



議員のQ & 市のA

総括・委員会質疑
議会は議案のココに注目！

point
01

がん検診

各種がん検診を実施し、がんの早期発見に努めるとともに、精密検査が必要な人を医療機関の受診につなぐことで早期治療に結び付けました。



■ 議員のQ&市のA ■

Q 検診受診者に対する精密検査の受診勧奨はどのように行っているか。

A 検診受診後に通知している。また、2 か月後を目安に確認の通知もしている。それでも受診につながらない人には、保健師や看護師等が電話や訪問により、粘り強く受診を促している。

point
02

新潟県美術展覧会（県展）上越展

美術・芸術文化の振興を図るため、新潟県美術展覧会上越展を開催しました。

- 会期：令和 6 年 6 月 12 日（水）～ 16 日（日）
- 会場：上越市教育プラザ体育館

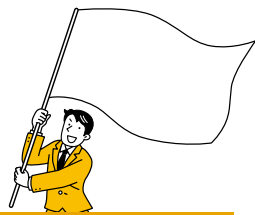
■ 議員のQ&市のA ■

Q 例年 6 月に開催しているが、期間中の暑さ対応や、体育館での鑑賞となることから、時期や会場を見直す考えはあるか。

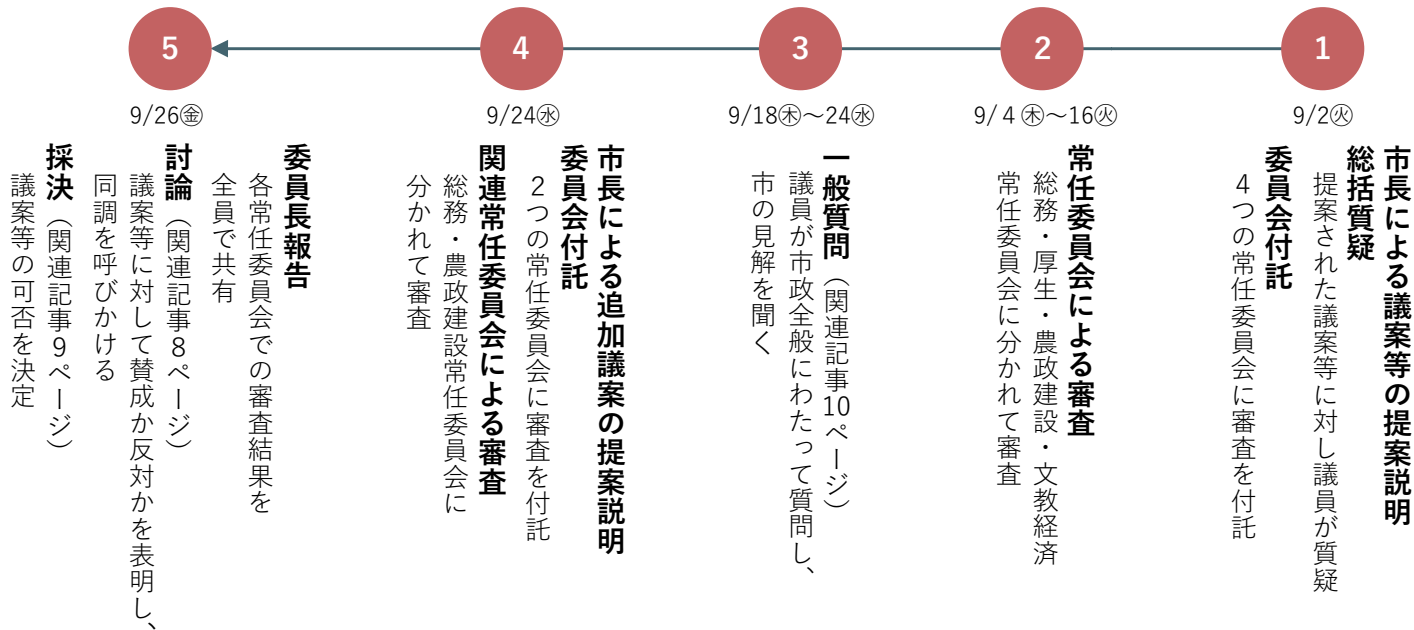
A 展示スペースを確保するため、教育プラザ体育館を会場としている。主催者に開催時期の変更等を要望しており、会場を変えずに、より良い環境で鑑賞できるよう取り組む。



会場の様子（作品鑑賞会）



9 月定例会の流れ

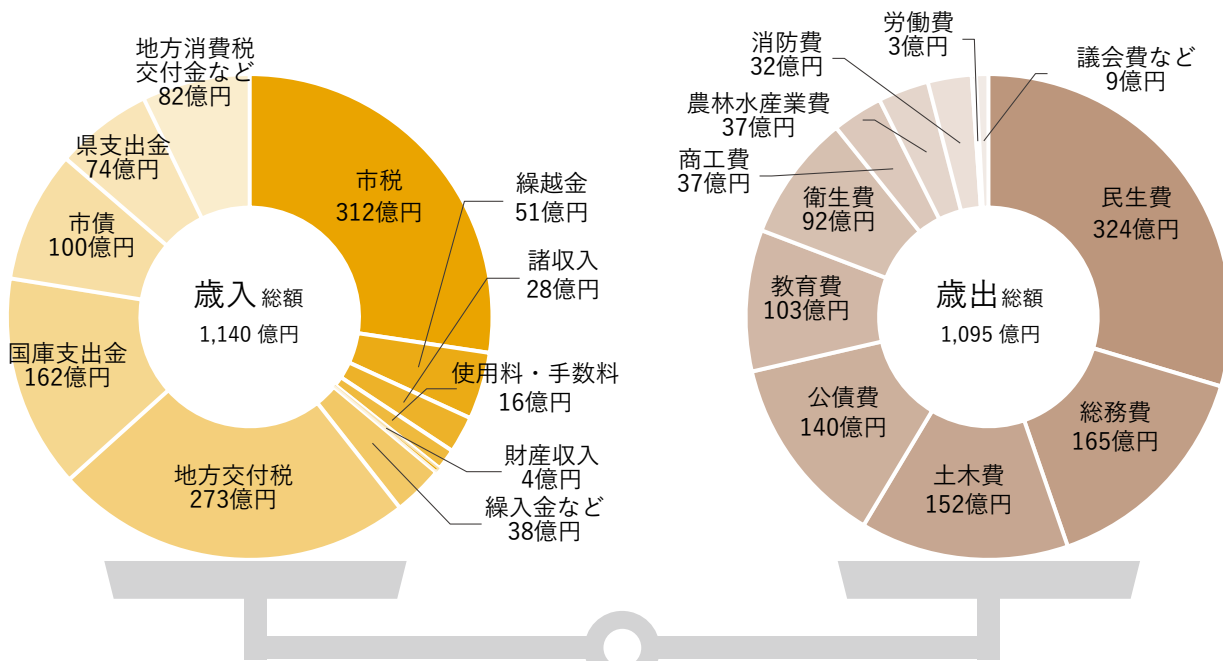


令和 6 年度 決算

市民 1 人当たり約 61 万円の歳出

1,095 億円

はどう使われた？



※標記単位未満を四捨五入しているため、総額と内訳が一致しない場合があります。

渇水に伴う原水確保に係る専決処分

水道水の原水確保に向け、消雪用井戸から浄水場までの間の配管工事等に要する経費を確保するため、市長が専決処分を行った旨の報告がありました。

●補正額：12 億 8,330 万円

■ 議員のQ&市のA ■

Q 設置した仮設管路の撤去も、この補正額の範囲内に収まるのか。

A 緊急設置した3か所の仮設配管の撤去費用は、補正額の範囲内に収まる見込みである。



上越妙高駅の消雪用井戸から城山浄水場までの配管工事

若者の就労支援

■ 議員のQ&市のA ■

Q 学生や若者を対象とした就労支援の啓発活動で見えてきた課題はあるか。

A 高校生や市外に出た若者に対し、市内企業の情報が十分に届いていないことから、求人求職ポータルサイトを開設し、求人情報等の提供を開始した。



学生、その他の求職者と企業をマッチングするポータルサイトを妙高市と共同で構築し、令和6年10月から運用を開始

地球環境学校の環境学習プログラム

市内の小・中学生などの利用者に対し、中ノ俣の自然や地域に暮らす人々の知恵と心に触れる自然体験学習を中心とした総合的な環境学習の場を提供しました。

■ 議員のQ&市のA ■

Q 環境学習プログラムは、利用者のニーズに合わせて更新する予定はあるか。

A 各プログラムの評判は高く、ニーズに応えられている。一方で、講師の高齢化も進んでいることから、更新については必要に応じて検討する。



アクティビティの一つである田植え体験を行っている様子

地球環境学校では、100を超えるアクティビティ（体験活動）を準備しています。ご希望に沿って、専門スタッフがこれらのアクティビティを組み立てて、プログラムを作ります。

≪利用状況≫	R4 年度	R5 年度	R6 年度
環境学習プログラム利用者数	3,187 人	3,334 人	2,681 人
宿泊者数	26 人	10 人	15 人

キューピットバレイスキー場の新第2リフト建設工事

令和4年度に策定した将来計画に基づき、キューピットバレイスキー場の新第2リフト建設事業を推進しました。

■ 議員のQ&市のA ■

Q 新第2リフト建設工事の進捗状況はどうか。

A 工事の約8割が完了し、当初計画より早く進んでいる。令和7年12月下旬の供用開始を予定している。



新第2リフト山麓駅舎



リフト乗り場

※ツリーランエリア（左図の黄色部分）について、関係機関に使用許可申請中。令和8年1月からツリーランエリアを開放予定。

流通備蓄

流通備蓄とは、災害時においてあらかじめ協定を結んだ事業者等から必要な物資を優先的に調達し、支援物資として活用することです。



■ 議員のQ&市のA ■

Q 流通備蓄の確保に向け、どのように取り組んでいるのか。

A 災害時は災害時応援協定を締結しているスーパーやホームセンターなどの事業者に協力を依頼して、物資の確保に努めていく。

ふるさと応援室の設置

首都圏における魅力発信や企業・団体とのネットワークの強化に取り組むとともに、ふるさと納税の取組を推進するため、令和6年度に「ふるさと応援室」が設置されました。

■ 議員のQ&市のA ■

Q ふるさと応援室を設置したことによる効果をどのように評価しているか。

A スピーディーな事務執行と機動力の向上につながった。



審議結果

◎：全員賛成で可決 ○：賛成多数で可決 ×：賛成少数で否決

議案等名	審議結果	議案等名	審議結果
議案第83号 令和6年度上越市一般会計歳入歳出決算認定について	○	議案第98号 上越市児童館条例の一部改正について	◎
議案第84号 令和6年度上越市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	○	議案第99号 上越市ろばた館条例の一部改正について	◎
議案第85号 令和6年度上越市診療所特別会計歳入歳出決算認定について	◎	議案第100号 市道路線の認定について	◎
議案第86号 令和6年度上越市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	○	議案第101号 工事請負変更契約の締結について	◎
議案第87号 令和6年度上越市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	○	議案第102号 財産の取得について	◎
議案第88号 令和6年度上越市病院事業会計決算認定について	◎	議案第103号 財産の無償譲渡について	◎
議案第89号 令和6年度上越市ガス事業会計決算認定及び利益の処分について	◎	議案第104号 損害賠償の額の決定及び和解について	◎
議案第90号 令和6年度上越市水道事業会計決算認定及び利益の処分について	◎	議案第105号 令和7年度上越市一般会計補正予算（第4号）	◎
議案第91号 令和6年度上越市下水道事業会計決算認定について	◎	報告第9号 専決処分した事件の承認について（令和7年度上越市水道事業会計補正予算（専第1号））	◎
議案第92号 令和7年度上越市一般会計補正予算（第3号）	○	報告第10号 専決処分した事件の承認について（令和7年度上越市一般会計補正予算（専第2号））	◎
議案第93号 令和6年度上越市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	◎	発議案第2号 中川幹太市長に対する不信任決議について	×
議案第94号 令和6年度上越市介護保険特別会計補正予算（第1号）	◎	発議案第3号 高校授業料無償化を求める意見書の提出について	◎
議案第95号 令和6年度上越市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	◎	発議案第4号 30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に関する意見書の提出について	◎
議案第96号 上越市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部改正について	◎	発議案第5号 国民健康保険財政への国庫負担の増額を求める意見書の提出について	×
議案第97号 上越市議会議員及び上越市長の選挙における選挙運動用ポスターの作成の公営に関する条例及び上越市議会議員及び上越市長の選挙における選挙運動用ビラの作成の公営に関する条例の一部改正について	◎	発議案第6号 米の安定供給体制の確立と農業基盤強化に向けた施策の推進を求める意見書の提出について	×
		発議案第7号 突風被害に対する支援の要望書の提出について	◎

各議員の賛否等

賛否が分かれるなどした上表の網かけの議案等について、議員別に賛否等を公表します。

議案等 番号	議決 結果	合計		久比岐野						市民クラブ						つなぐ			みらい			日本共産党 議員団			公明党		会派に属さない議員										
		賛 成	反 対	降旗 太地	大島 美香	草間 和幸	安田 佳世	ストラット 恵美子	橋本 洋一	飯塚 義隆	江口 修一	熊倉 隆将	山本 佳洋	高山 ゆう子	小林 和孝	こんどう 彰治	本城 文夫	平原 留美	滝澤 陽一	関川 信之	宮崎 朋子	牧井 邦生	高橋 浩輔	櫻庭 節子	石田 裕一	平良 木哲也	上野 公悦	橋爪 法一	西沢 智子	山田 忠晴	伊崎 博幸	宮越 馨	丸山 章	滝沢 一成	渡邊 隆		
83	可決	28	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	-	
84	可決	28	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	-	
86	可決	28	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	-	
87	可決	28	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	-	
92	可決	28	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	-	
発議案2	否決	10	22	無 記 名 投 票																																	
発議案5	否決	11	20	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	○	○	×	○	×	-	
発議案6	否決	12	19	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	-	

※○は賛成、×は反対。なお、議長（渡邊隆）は発議案2を除き、採決には加わらない。



討論とは、提案された議案等に対して、議員が賛成か反対かを表明するものです。討論の内容も踏まえて、採決に進みます。

発議案第2号に対して 中川幹太市長に対する不信任決議について

賛成



平良木議員
（日本共産党議員団）

何度にもわたって市民の信頼を裏切るとような不適切発言を繰り返している中川市長には、市長という重責を任せることはできない。市の信頼を失墜させ、すでに市民の信頼を失っていることから賛成する。

反対



橋本議員
（久比岐野）

市長の一連の発言と政治姿勢は十分不信任に値するが、市政の空白は許されない。また、市長選まであと1か月であり、最終的な判断は市民に委ねられるべきものと考えることから、反対する。

発議案第2号の採決は、無記名投票で行われました



投票の様子



開票の様子

市長提出議案に対して

反対



橋爪議員
（日本共産党議員団）

障害を持った方への医療費助成が十分とは言えず、市民の理解を得ないまま通年観光計画を進めたことなども受け入れられないため、決算認定を始めとする全5議案に反対する。

賛成



平良木議員
（日本共産党議員団）

政府による大きな支援がなければ、国民健康保険の多くの被保険者が十分な医療を受けられない状況になりかねないため、政府に対する国庫負担の増額を求める意見書の提出に賛成する。

各議員の賛否は次のページをご覧ください。



21人の視点

一般質問

一般質問とは、議員が市の行政全般にわたって、市長や教育長等に方針・見解・事実の説明・報告などを求めるものです。今定例会では、21人が登壇し、論戦を繰り広げました。その中から一部抜粋して掲載します。



皆さんは、どのテーマに関心がありますか？



- | | |
|--|----------|
| ● こんどう彰治 通年観光計画 / 今夏の渇水対応 / えちご・くびき野100kmマラソン・ | } 11 ページ |
| ● 宮越馨 中川市政の評価 / 市長の政治姿勢・ | |
| ● 高橋浩輔 身寄りのない高齢者の支援・ | } 12 ページ |
| ● 橋本洋一 一般市民の消火栓使用・ | |
| ● 江口修一 コンパクトなセンター病院の整備 / 車による津波からの避難・ | |
| ● 草間和幸 今夏の渇水対応 / 渇水から農業を守る取組 / 市長の三田市訪問・ | } 13 ページ |
| ● 安田佳世 市長公約プロジェクトの成果と課題・ | |
| ● 丸山章 市長公約の成果・ | } 14 ページ |
| ● 宮崎朋子 災害時協力井戸登録制度の導入 / 果樹生産者団体の支援・ | |
| ● 平原留美 上越妙高駅駐車場の大雪対策 / 上越妙高駅前の将来像・ | |
| ● 山田忠晴 HPV ワクチンの個別通知実施 / 带状疱疹ワクチンの接種率と助成・ | } 15 ページ |
| ● 石田裕一 スポーツのまちづくり / スポーツクラブ / 青少年育成会議 / 小中学校統合・ | |
| ● 伊崎博幸 当市における外国人の現状 / 南葉高原キャンプ場の林道の安全確保・ | } 16 ページ |
| ● 大島美香 アニバーサリーイヤーの取組の成果 / 観蓮会の成果・ | |
| ● ストラットン恵美子 包括的性教育の推進 / グレーチング蓋の盗難抑止対策・ | } 17 ページ |
| ● 滝澤陽一 市長が考えるリーダー像 / 柿崎区内における小学校統合・ | |
| ● 西沢智子 タクシー利用料金等助成事業の見直し・ | |
| ● 飯塚義隆 大潟工業団地、新規工業団地の整備促進 / 保倉川放水路の整備促進・ | } |
| ● 平良木哲也 学校給食費の無償化 / 多文化共生の教育推進・ | |
| ● 高山ゆう子 いじめから子どもを守る取組・ | } |
| ● 橋爪法一 農業に関心を持てる学校給食の推進・ | |

二次元コードを読み取ると、その議員の一般質問の動画を視聴できます。



**通年観光計画
市長公約と乖離は？**
こんどう 彰治（市民クラブ）



Q 鉄道博物館建設の見送りは、通年観光計画との乖離が生じるが、どのように考えているか。
A 当初の概算事業費を約4億6,000万円と見込んだが、その後のニーズ調査に基づく施設整備では約21億6,000万円に膨らんだ。安定的な運営には、年間約4万5,000人の来館者や、物販・飲食などで毎月約1000万円以上の売り上げが必要であることを把握したため、整備を見送ることが適当と判断した。
Q 通年観光計画そのものを變更せざるを得ないのではないか。
A 地域の鉄道遺産を面的に捉える手法で取組を推進するため、計画変更は考えていない。

今夏の渇水における危機管理は

Q 城山浄水場への配水管の破損により、節水を余儀なくされたが、節水要請に唐突感を感じる。危機管理についてどのように考えているか。
A 情報発信、伝達の在り方は改善の余地があると認識しており、対応について今後検証する。

えちご・くびき野100kmマラソン終了か

Q 令和8年度で終了するとしたが、再考する考えはないか。
A 実行委員会の決定を尊重して、令和8年度に開催する大会を最後としたい。



**市政混乱！停滞には
市政の立て直しが必定**
宮越 馨（無所属）



Q 中川市政の4年間は度重なる不適切発言などに見られるように、選挙には勝ったが、適切な市政運営はできなかったものと断言する。こうした評価は上越市史に不名誉な記録として残り、市民の名誉と誇りを傷つけた。相手のことを考えず発言する姿は幼稚すぎる。失った行政の信頼を回復するには、市長の辞職しかない。
A 私が目指すまちづくりは、一步一步前に進めることができており、市政運営に対する信頼の回復につながるものと考えている。

市長の政治姿勢に問題はないか

Q 中川市長の行政統治能力の欠如は驚くばかりだ。特に能登半島地震での対応、渇水対策における危機管理能力が全く感じられない。中川市長には限界を感じる。議会からの2度にわたる辞職勧告は直ちに受け入れるべきだ。
A 残された任期において、市長としての職責を全うしたい。

Q 今の財政状況は大変厳しい。監査委員も指摘するように、そう遠くない時期に財政破綻もあり得る。火力発電所からの巨額な税収が無かったら財政破綻している。責任は重いがどうか。
A 今以上の厳しい財政運営が求められている。歳入の確保と歳出の適正化により、財政調整基金に過度に頼らない収支構造への転換に努める。



**身寄りのない高齢者の
安心を支えるために**
高橋 浩輔（みらい）



Q 当市における高齢者単身世帯、高齢者のみ世帯の状況と今後の推移の予測はどうか。
A 令和7年4月1日現在、65歳以上の単身高齢者世帯は1万1,973世帯、高齢者のみ世帯は1万770世帯で、今後も増加傾向で推移すると予測している。

Q 身寄りのない、身近に頼れる人がいない高齢者等が生活していく上での困難や課題をどう捉え、どのような手立てを講じているか。
A 課題は多岐にわたり、市や包括支援センターに多くの相談が寄せられている。令和6年度に市が策定した「上越市における身寄りのない人への支援に関するガイドライン」などに基づき、本人の実情に応じた支援を行っている。

Q 横須賀市では、身寄りのない高齢者等が自分の意思を自ら伝えることができない状態になった場合に備えて必要な情報を市が預かり、万一の時に定められた対象に伝達する「終活情報登録事業」を行っている。また、三世代同居・近居を支援する自治体が増えてきており、高齢者を身寄りのない状態にしないという観点から、当市でも取組を進めるべきと考えるがどうか。
A 横須賀市等の先進事例についてはよく研究し、必要なものは取り組んでいきたい。三世代同居・近居については、行政として積極的に促すことは慎重に考える必要がある。



市民の消火栓使用を 認めるべきでは



Q 火災発生時の初期消火活動における市民の消火栓使用については、市民から強い要望がある。法令に禁止する定めはなく、使用を認めている自治体もあるなど、その取り扱いはいくつではない。行政は市民の生命と財産を守る責務がある。一生懸命に働いて、ようやく築きあげた財産が目前で燃えている時に、火を消そうとする行動を抑制する権限が市にあるのか。消防車が到着するまでの短い時間の消火栓使用であれば、市長の責任において市民が自分の財産を守ろうとする行動を認めるべきではないか。

A 法令に定めはないが、これまで一般市民が危険な消火活動に関わることは適当でないとの判断で、消火栓を使用しないよう呼びかけてきた。消防庁や県防災局、上越地域消防事務組合の見解を確認するとともに、消防団幹部と意見交換した結果、安全装備を持たず、訓練を積んでいない市民が火元に向かうことは大変危険な行為であるとの見解が改めて示された。市としては、消火活動には防火衣などの防護装備と安全かつ適切な操作を行うための訓練が不可欠であり、安全性が確保できない状態で市民が消火栓や消防ホースを使い消火活動を行うことは大変危険であると判断し、常備消防や消防団の役割として整理している。



市長公約プロジェクト やり残しはないのか？



Q 人事改革プロジェクトの成果と課題は。
A 政策分類に基づく組織再編、ふるさと応援室や地域クラブ推進室等を設置した。また、ジョブローテーションの実施やキャリアデザイン等を勘案した配置を行い、職員の意欲向上に取り組んでいるが、組織風土や人材育成、業務効率化等に対する肯定的な意見が低いことから、組織としてのパフォーマンスを勘案した人事異動の在り方などを検討する必要がある。

Q 地域自治推進プロジェクトの成果と課題は。
A 令和5年度から「地域独自の予算事業」を実施し、2年間で延べ320件に及ぶ地域主体の取組等が実現した。地域自治区の区域や地域協議会などに関する議論の取りまとめは道半ばであるが、令和10年度での新制度移行を目指し、制度設計や手続を進めていく。

Q 通年観光プロジェクトの成果と課題は。
A 令和6年4月に「上越市通年観光計画」を策定し、春日山の杉の伐採、直江津屋台会館での社会実験、高田の歓喜橋塗装など、各地域で取組を進めている。一層の推進には継続的な取組と地域との更なる連携の強化、また、各種施策の実現には多額の経費が必要であるが、取組の優先順位や実施時期を踏まえ、地域と調整を図って取り組んでいく。



センター病院のコンパクト化と収支改善策は



Q 100床程度のコンパクトなセンター病院建設と、センター病院の収支改善策を聞きたい。
A 財政負担の軽減につながるあらゆる手立てを講じるとともに、改築費の縮減も視野に入れ、基本計画を見直す。また、診療報酬の加算や生産性向上などの改善策のうち、実行確度が高いものを抽出し、取りまとめる作業を進めており、実行に移す準備を整えている。



津波からの車避難による交通渋滞への対応は
Q 津波からの車避難による交通渋滞と、避難行動要支援者への対応について聞きたい。
A 避難は「原則徒歩」としつつ、自力での避難が難しい避難行動要支援者は「車による避難も可能」とする新たな方針を示した。また、支援が必要な人や支援者などを可視化した「支え合いマップ」を活用することで、より円滑で実効性の高い個別避難計画の作成につながっている。



市長公約の成果等は



Q 木田庁舎の一極集中から「地域分権」へ新しい自立した地域づくりを目指すとしているが、新しい地域づくりはできたのか。
A 地域独自の予算事業は、総合事務所等が市役所の各課と同じように予算要求できる仕組みとしたほか、市民からの困りごと等に迅速に対応できるよう、総合事務所の緊急修繕等の対象要件を緩和するなど、改善を図ってきた。

Q 特定健康診断の受診率を上げ、寝たきりを少なくし介護保険料や健康保険料を安くしますについて、当初と比較した場合の現状はどうか。
A 介護保険について、介護支援専門員と市保健師等が連携したケアプランの作成などにより、要介護認定者数、認定率は横ばいで推移している。また、低所得者の保険料上昇抑制のため、保険料の更なる多段階化や負担割合の見直しを行い、介護保険料は233円の減となった。

Q 国のSDGs未来都市制度の導入を進めますについて、進捗を聞きたい。
A この間、SDGsの17の目標と第7次総合計画の各施策を関連付け、持続可能なまちづくりの推進を図ってきた。一方、国では令和7年度からSDGs未来都市制度についての見直しが行われ、財政支援の仕組みが大きく変更されたことから、総合的な取組を展開していく中で、有効なタイミングを判断していきたい。



今夏の渇水対策の影響と今後の取組は



Q 配管工事費等13億円を専決処分したが、今後見込まれる渇水対応の予算措置の想定と、今後の水道料金への影響はどうか。

A 既に節水要請を解除したため、今後の予算措置は想定していない。また、この専決処分により、すぐに水道料金が上昇することはない。

頻発する渇水から農業を守る取組を

Q 今後の農業用水不足に備え、消雪用地下水を水路に流す考えはないか。

A 冬の場の消雪への影響を見極める知見はないが、渇水が頻発していることから、様々な対策を研究・検討していく。

Q 干ばつの水田復旧工事の期間を延長する考えはあるか。

A 12月下旬までの完了を目指すが、状況に応じた柔軟な対応を検討していく。



三田市訪問時の公費支出は適正か？

Q 市長の不適切発言による対応で三田市を訪問したが、公費を使った理由を説明すべきではないか。

A 旅費は自己負担する考えだったが、三田市訪問は公務であり、私費で賄うと公職選挙法違反の恐れがあったため、公費から支出した。



災害時に備えて 市民ができることは？



Q 災害時の井戸水利用は、住民の近くで素早く給水体制を構築できるという利点がある。災害時における生活用水確保と共助という点から、個人や事業者所有の井戸を災害時に開放する「災害時協力井戸登録制度」の導入について、検討するべきではないか。

A 当市は地盤沈下の影響を配慮する必要があるほか、水質確認の頻度や方法、井戸水を汲み上げる設備の維持管理など、整理すべき課題が少なくない。地域防災計画に基づき、市外からの給水協力を含め、行政による応急給水活動を基本としながら、災害発生時の状況に応じて、可能な範囲で個人や事業者が所有する井戸の活用を図ることとし、引き続き、他自治体の事例や、国・県の動向を注視していきたい。

果樹生産者団体への支援を！

Q 市内の果樹生産地における生産者団体の抱える担い手不足などの諸課題への対応に向けて、どのように支援していくのか。

A 後継者の確保や栽培技術の伝承、災害時の迅速な対応などの取組は、果樹産地として継続していくために欠くことのできないものと考えられる。引き続き、生産者団体のご意向やご要望をお聴きし、関係機関・団体と連携しながら、適切な支援に意を用いていく。



**上越妙高駅周辺駐車場
降雪時も利用しやすく**



平原 留美（つなぐ）

Q 令和7年2月の大雪時、上越妙高駅の市営駐車場が満車状態になったのは、どのくらいか。また、定期利用者からの苦情はなかったか。

A 1日のうち1回でも満車状態となったのは、2月5日から24日までの20日間で、最も多い西口駐車場で12日だった。この期間内に市営駐車場の定期駐車券利用者から、満車で駐車できないという苦情が3件あった。

Q 次の冬に向けてどのような対策を講じるのか。

A 冬期は上越妙高駅周辺の駐車台数が減少する可能性があることや公共交通機関の利用を促すことなど、事前周知の強化に努めるとともに、民間駐車場の事業者に対しても、引き続き粘り強く除雪の協力を求めている。



10年後の上越妙高駅前の姿は？

Q IT企業を集積した後の上越妙高駅前に、さらに必要なものは何か。

A 将来的には、上越妙高駅周辺地域をIT企業にとどまらず、多種多様な企業や団体、そして行政や教育研究機関などが集まり、産官学による共創によって、新たな価値やヒト・モノ・カネの循環を生むイノベーションを創出する場として発展させていきたい。



**当市における
外国人の現状は**



伊崎 博幸（無所属）

Q 当市において、外国人雇用の上限人数は定めているか。

A 自治体が独自に雇用者数の上限を設ける制度等はない。

Q 国民健康保険税の収納率はどうか。

A 令和6年度現年分の実績は、世帯主が外国人である場合の収納率は97・45%、全体の収納率は96・58%となっており、外国人が世帯主である方が、全体の数値を若干上回っている。

Q 外国人世帯と日本人世帯の生活保護受給率はどうか。

A 9月1日現在、日本人のみで構成する世帯数7万5,703世帯に対し、生活保護受給世帯は1009世帯、受給率は1・3%である。一方で外国人を含む世帯数2124世帯に対し、生活保護受給世帯は25世帯、受給率は1・2%である。

南葉高原キャンプ場につながる林道の安全は

Q 南葉高原キャンプ場につながる林道のガードケールなどの安全施設について、現状をどのように認識しているか。

A 一部の区間において、老朽化と雪の重みにより、支柱の傾きのほか、ケールのたるみや断裂があることを確認しており、優先順位を定めて、順次に維持補修を実施している。



**HPVワクチンの
個別通知の実施を！**



山田 忠晴（公明党）

Q 令和7年3月末までに1回以上HPVワクチン接種を受けた方が、公費による接種を希望する場合、遅くとも令和7年12月末までに2回目、令和8年3月末までに3回目のワクチン接種を受けなければならない。対象者に個別通知を行い、ワクチン接種を促す考えはないか。

A 令和7年3月末までに1回以上接種し、7月末時点で接種が完了していない人は532人となっており、対象となる532人の方が、キャッチアップ接種期間内の令和8年3月までに確実に3回接種できるよう、既に接種勧奨の通知を送付している。

带状疱疹ワクチン定期接種の接種率と助成は

Q 令和7年度から带状疱疹ワクチンが定期接種化されたが、現在の接種率ほどの程度か。また、接種率向上のため、ワクチン接種推奨に向けた取組の状況はどうか。

A 国は原則として65歳以上を定期接種の対象者としており、令和7年7月までの接種率は11・3%となっている。広報上越や市ホームページにより周知するとともに、定期接種の対象者に対し、個別に通知を行った。

Q 接種費用の助成を拡充する考えはないか。

A 現時点では独自に接種費用の助成額を上乗せする考えは持ち合わせていない。



**アニバーサリーイヤー
取組の成果は**



大島 美香（久比岐野）

Q アニバーサリーイヤーの取組について、観桜会・謙信公祭・上越まつりにおける入込数や経済効果はどうか。

A 観桜会は52万5,000人、上越まつりは24万3,000人、謙信公祭は9万7,000人といずれも前年を上回り、市外からの来訪も増加した。物産や宿泊の売上が好調との声があり、地域経済に効果があった。

Q 未来づくり補助金の実績と今後の方向性を聞きたい。

A 13件を採択し、本町商店街での市民参加型イベントなど、多様な取組が行われた。制度を継続する予定はないが、新たな担い手の拡大や将来への広がり意義があったと考える。

高田城址公園観蓮会の成果は

Q 第46回観蓮会の来場者数と情報発信の効果、商店街との連携やクーポン活用による回遊性向上の効果、熱中症対策について聞きたい。

A 来場者数は10万1,000人で、上越観光Naviの閲覧数は2万4,243件となった。アフタヌーンティーや乗馬体験が好評で、商店街イベントとの連携も一定の回遊効果があった。熱中症対策では、お休み処や涼み処を設置し、給水や休憩に訪れる姿が多く見受けられた。今後も実行委員会と連携して、対応していく。



**スポーツを活かした
まちづくりを！**



石田 裕一（みらい）

Q スポーツによるまちづくりのビジョンはどうか。

A スポーツ活動を通じ、人と地域が結び付き、活力ある地域社会の実現を目指すことである。

総合型地域スポーツクラブへの支援は？

Q 積極的な支援を行う考えはないか。

A スポーツ振興に重要な存在と捉えているが、収入減や指導者不足で解散する団体もあり、財政面や人材面での支援を協議している。



地域・学校・地域青少年育成会議の連携を

Q 連携希薄化にどう対応していく考えか。

A 少子化や学校統廃合などの学校を取り巻く状況を見極め、それぞれの連携が時世に合っているかといった観点であり方を考えていく。

今後の小中学校統合の方向性は？

Q 少子化が進む中、今後の学校統合の方向と、廃校した地域の賑わい促進の取組はどうか。

A 統合前提でなく、望ましい学習環境の確保を念頭に置いている。また、廃校した地域については、資源を活かした学びの場の提供や地域活動への支援を行っていきたい。



**包括的性教育で
正しい知識を！**



ストラットン恵美子（久比岐野）

Q 当市の性教育の現状と課題を聞きたい。

A 学習指導要領に基づき、人権教育に配慮しながら発達段階に応じて指導しているが、専門性を有しない担任等が資料の選定や授業の工夫に努めなければならないことが課題である。

Q 教職員等に対する研修や教育の機会を積極的に設ける考えはないか。

A 産婦人科医等の専門家による研修を検討するなど、知識や理解を深める取組を行う。

Q 幼児期の性教育の必要性をどう考えるか。

A 幼児期は子どものウエルビーイングの醸成に大切な時期であり、発達段階に応じた自分と相手の体を大切にする指導など、幅広い側面から性教育を推進する。

Q こども家庭庁が進めている、妊娠前からの心身の健康を整える取組である「プレコンセプションケア推進5か年計画」に基づく当市の取組はどうか。

A 関係機関と連携し、性の正しい知識やプレコンセプションケアを広く周知する取組を行う。



安心安全を脅かす盗難から公共物を守る！

Q グレーチング蓋の盗難抑止対策を聞きたい。

A 重いコンクリート蓋を使用したり、市名を刻印した盗難防止金具を取り付ける。

**市長が考える
リーダー像とは**

滝澤 陽一（つなぐ）



Q 市を代表する市長としてのリーダー像について、どのように考えているか。

A 現場主義に基づき、市民との対話を通じて、多様な思いや地域の実情を把握しながら、市民の目線に立って市政運営に取り組むことである。

Q リーダーとしてどのような成果を残せたか。

A 市政運営を振り返ると、反省すべき点も多々あったが、市民に約束した公約のおおむね6割について、一定の成果を持って実現が図られた。将来都市像として掲げる「暮らしやすく、希望あふれるまち」の実現に向けて、目指すまちづくりを着実に前に進めることができた。

柿崎区内における小学校統合の今後は

Q 今後の統合スケジュールはどうか。

A 統合先である柿崎小学校について、校舎壁面の全面的な改修や窓サッシの入替え、内装改修といった大規模な改修が必要となったため、目標としていた令和9年4月の統合を1年先送りし、令和10年4月の統合に向け、現在、保護者や地域に説明を行っている。

Q 校舎改修の期間は、授業をどこで行うのか。

A グラウンド内にプレハブ校舎を設置して授業を行う。児童や教職員への負担が極力からないよう対応していく。

学校給食費の無償化を

平良木 哲也（日本共産党議員団）



Q 令和8年度からの学校給食費無償化の見通しをどのように認識しているか。

A 公表内容以外は、具体的な連絡はなく、いわゆる三党合意に基づく今後の議論については、未だ不透明であると認識している。

Q 国の交付金を活用すれば、市の裁量で無償にすることは可能であると考えているがどうか。

A 臨時交付金は、生活者支援、事業者支援の事業に活用し、給食費無償化に全額充てず、総合的な観点から調整されたものと理解している。

Q 教育委員会は、無償化分を要求したのか。

A 教育委員会の要求としては、食材の高騰分を支援する予算とした。

Q それは消極的だ。令和8年度は小学校だけではなく、中学校も無償にする考えはないか。

A 金額を踏まえながら、あり方を検討する。

多文化共生の教育を

Q 国籍、民族、考え方に関係なく、すべての人を大切にするのが行政であり、教育であると考えているが、共通認識を持つてもらえるか。

A 異文化を尊重するとともに、異なる習慣、文化を持った人々とともに生きていく態度や能力を育成する学習を行い、国家・民族・人種に対する偏見や先入観を排除し、互いの基本的人権を尊重し合う態度の育成に努める。

**障害者支援の
更なる拡充を！**

西沢 智子（公明党）



Q 障害のある人が住み慣れた地域で生き生きと暮らせるよう、余暇活動や社会参加のための外出支援を行うタクシー利用料金等助成事業について、令和6年6月定例会の一般質問で年内にタクシー券を使い切った際の追加交付を求めたところ、「物価高騰が続いているため令和7年度に向けて検討していきたい」という答弁があった。多くの障害者の方にとって引き続き移動の不安が残されたままとなっているが、この間の検討状況はどうか。

A 助成事業では、タクシー利用券、自動車燃料購入券、自動車燃料購入費助成に加え、令和6年度からは、路線バス利用券とタクシー利用券のセット券を新設し、希望に応じて選択されたものを交付している。また、令和6年の一般質問後には、県内自治体における実施状況の調査や、障害者団体との意見交換会において「タクシー券が不足する場合がある」との声をお聞きしたことを受け、タクシー券の増額や追加交付に向けて検討を進めてきた。引き続き、制度を利用していただく方々の声や、他の自治体の取組事例を参考にしながら、令和8年度予算編成に向けて検討していく。



**子どもの命と
人権を守る取組を！**

高山 ゆづ子（市民クラブ）



Q 市立小中学校のいじめの件数は、令和3年度372件から令和6年度484件と増加し、さらにその中で「ひどく叩かれたり蹴られたりする」が38件と聞き、大変驚いている。「いじめ見逃しゼロスクール集会」や「命・きずなを考える講座」を開催し、命の大切さや思いやりの心を学ぶ取組をしているが、いじめの件数が増加していることについてどう分析しているか。

A いじめの定義が「いじめの発生」から「いじめの認知」に変更されたためと分析している。

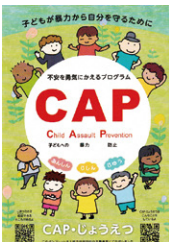
Q 子どもが、自分や相手の人権や権利を理解できていないからではないか。

A 子どもたちが興味・関心を持って人権を学べるCA Pワークでいじめ対策に本気で取り組む考えはないか。

A 有効な取組だと認識しており今後も検証するが、各学校での主体的な取組を尊重したい。

Q 今、新潟の性教育が変わろうとしている。子どもの頃から楽しく遊びながら「性を正しく学ぶ」ことが必要と考えるが、ユースクリニック新潟の取組をどのように捉えているか。

A 包括的性教育を分かりやすく説明しており、講師としてお呼びして交流を深めたい。



**大潟工業団地と新規
工業団地の整備促進を**

飯塚 義隆（久比岐野）



Q 大潟工業団地の分譲見通しはどうか。

A 令和7年度内に所有権移転登記や遺跡発掘調査を進め、令和8年度から造成工事に着手し、令和9年4月の分譲を目指していく。

Q 市内の分譲可能面積と、今後の見通しは。

A 5年前には26haが分譲可能であったが、現在は民地も含め8ha程度である。企業ニーズが高まっているため、今後5年から10年の間で25haから30ha不足する見込みである。

Q 事業用地の不足が懸念されることから、新規工業団地の整備を促進するための基本計画を早期に策定すべきでないか。

A 早く関係機関と調整し、具体的な場所で具体的な動きをしていきたい。

Q 企業誘致は、地元企業の雇用環境に影響を与えるが、その対策を講ずるべきでないか。

A 様々な人材確保策と併せ、雇用が少なく税収効果の高い一丁関連非労働集約型産業の誘致にも取り組んでいきたい。

保倉川放水路の整備促進の進捗は

Q 事業化に向けた進捗はどうか。

A 事業化の詳細な時期は、現時点では未定とされているが、令和7年9月3日の大雨では、放水路ルート周辺で被害が生じており、一刻も早い事業化に向け、国に強く働きかけていく。

**もっと農業に関心を
持てる学校給食を**

橋爪 法一（日本共産党議員団）



Q 地場産農産物の使用状況と課題について聞きたい。

A 米は上越市産の「つきあかり」を100%使用し、地場産野菜は令和6年度で14%である。課題としては、一定の規格を満たした必要量の安定確保や、使用時期によっては他の産地よりも高値になるといったことがある。

Q 学校給食を通じて子どもたちに農業への関心を持つってもらうためには、一層の努力が必要である。農業は人間の命を守るもっとも重要な職業の一つであることを根本に据えつつ、できるだけ生産者の顔が見えるようにすることや、たくさんの方の生き物との繋がりの中で農作物が生産されていることを知ってもらうといった取組が必要ではないか。

A 学校の授業や給食の時間だけでなく、農業体験や生産者との交流を通じて顔の見える関係づくりが大事である。子供たちから農業に関心を持つてもらい、担い手が育つことにつながってもらいたいと考えている。



議会を傍聴しませんか

だれでも自由に
見たり、聴いたりできるんです



次の定例会は
令和7年
12月4日(木)から

総括質疑	12月4日(木)
委員会	12月5日(金)～10日(水)
一般質問	12月11日(木)～16日(火)
採決	12月18日(木)

※日程は変更となる可能性があります。詳しくは、ホームページをご覧ください。



関川広報広聴委員

議場・委員会室で傍聴する

●本会議の受付

市役所6階傍聴席前で傍聴受付票に記入してから入室してください。

●各委員会の受付

市役所5階委員会室に入室してから傍聴受付票に記入してください。

ライブ配信・録画を見る

●本会議の配信

専用サイトでライブ配信と過去の動画を配信しています。



●各委員会の配信

YouTubeでライブ配信と過去の動画を配信しています。



編集後記

人類が進化したひとつの要因は言語を得たことだと言われており、その後に文字が発明されたとのことです。人類が言語で感情等を伝えるのが得意な一方、文字により感情等を伝えるのが言語のようにうまくいかないのはこのためだと言われています。しかし、この【かけはし】を通じて議員活動を市民の皆様にしつかり伝えていけるよう、更に努めてまいります。

関川信之

広報広聴委員会

委員長 ストラットン恵美子

副委員長 櫻庭 節子

委員

降旗 太地

西沢 智子

山本 佳洋

関川 信之

小林 和孝

上野 公悦

渡邊 隆

市長の不適切発言に対する議会の対応は

— 市長への申入れ —

市長の不適切発言に対する申入れ

上越市長 中川 幹太 様

令和7年7月1日及び3日に行われた公務において、市長は、自身が中学・高校生時代に居住していた兵庫県三田市で食した米を不当に貶める発言をされましたが、これを受け、同7日に兵庫県三田市長から抗議状が送付されたところです。

市長は令和6年6月、自身の不適切な発言について市議会から「二度とこのような事がないよう、厳重に抗議する」との申し入れを受け、加えて、令和6年7月臨時会において、辞職勧告決議を受けたにもかかわらず、今回、再び失言を重ねており、市民の市政に対する信頼感の喪失など、今後の市政運営に計り知れない影響を与えています。

上越市議会としては、市長の失言に対し、改めて以下のとおり申し入れます。

○ 市議会から厳重な抗議や辞職勧告決議を受けたにもかかわらず、再び同様の失言をしたことについて、市議会としては看過できない深刻な事態であると考えている。

○ また、この度の失言では、他自治体の住民の気持ちを傷つけ、自治体間の関係等においても由々しき事態を生じさせており、更に、市のイメージも大きく損ねたことから、その責任は極めて重いものがある。

○ よって、市長としての責任の重さに改めて思いを致し、職を辞することを申し入れる。

令和7年7月14日

上越市議会

議長 渡邊 隆

7月14日、兵庫県の三田市で食した米に関して失言があった中川市長に、議長から申入れを行いました。令和6年度、市議会から厳重な抗議や辞職勧告決議を受けたにもかかわらず、再び失言を重ねていることから、市議会の総意として職を辞することを求めたものです。



— 全員協議会の開催 —

8月28日に全員協議会が開催され、不適切発言に伴う三田市への対応と今後の取組等について、市長から報告を受けました。議員からは、「辞職に値する発言と市長自身が判断したにもかかわらず、なぜ辞職しないのか」などの質疑が出ました。

議員辞職のお知らせ



宮越馨議員



丸山章議員



石田裕一議員

宮越馨議員、丸山章議員及び石田裕一議員から、一身上の都合により辞職願が提出されました。9月26日、議会がこれを許可し、辞職が決定しました。

次号は、令和8年1月25日発行です。

上越市議会

ご意見を聴く会・ 議員と気軽にトーク

議員とお話し しませんか？

市議会議員が皆さんの貴重な
ご意見をお聴きします

2025 秋
No.229

令和7年10月25日発行



ご意見を聴く会

11月6日（木） 18時30分～20時
三和コミュニティプラザ 多目的ホール
11月7日（金） 18時30分～20時
福祉交流プラザ 第1会議室

議員が地域に出向き
フリーテーマで
ご意見をお聴きします。
申し込みは不要です。

議員と気軽にトーク

11月8日（土） 13時30分～15時
ZOOMによる初のオンライン開催！
ご自宅から参加可！定員は10名です！

事前申込が必要です。
二次元コードまたは
電話でお申し込みください。

今回の
テーマは
こちら！



子育て／教育支援／移住定住

ーお申し込み・参加にあたっての留意事項ー

- ・氏名、メールアドレス、電話番号をお伺いします。
- ・意見交換の様子を議会だより等に掲載します。



議員と気軽にトークの
申し込みはこちらから

【申込締切】11月4日（火）正午まで